

音順	方劑名	生薬構成 および製法・服用方法
きー4	<p>傷寒論・金匱要略条文</p> <p>枳実梔子豉湯</p>	<p>読み および解説・その他</p> <p>枳実（苦寒）1.1g・梔子（苦寒）1.4g・香豉（甘平）14g</p> <p>上の3味の中から枳実・梔子の2味を、水260mlと酢20mlを混ぜたものを空煮して160mlに煮詰めたものの中に入れて煮て80mlとなし、その中に香豉を加えてさらに煮ること5、6沸して滓を去り、2回に分けて服用する。服後覆って少し汗を取るべし。</p>
<p>弁陰陽易瘥後勞復病脈証併治第十四第2条（傷寒論）</p>		
<p>「大病瘥後勞復の者は枳実梔子豉湯之を主^{つかさど}る。若し宿食有る者は大^{いご}黄（苦寒）博^も碁子大の如きを5、6枚加う。」</p>		
<p>解説 大病の回復後に、労働したりして無理して病が再発したものは、枳実梔子豉湯が主治する。もし宿食があるならば、大^{いご}黄1～2gを加えなさい。</p>		
<p>大病（永い間の病で、多分胸か胃に熱があった病だったと思われる）の後で、熱のために不足した津液が十分に回復していないのに、無理をして労働をすると、更に津液が不足して虚熱を持ち、気血の循環も悪くなる。或いは無理に食べると津液不足のために、消化液が十分に分泌されずに、胃に食べ物が滞る。そのために余熱（虚熱）が胸膈を乱し、口渴、煩悶、心下痞塞、胸脘脹満などを引き起こす。このような場合には、枳実梔子豉湯で熱を取り、津液を回復すれば治る。もし宿食があるならば、大^{いご}黄1～2gを加える。</p>		
<p>枳実梔子豉湯は、梔子豉湯の香豉を2.5倍に増やし、香豉で頑固な鬱熱を発散させ、枳実で気を巡らせて心下痞を取り除く行気消痞の薬方である。</p>		
<p>便秘がある場合は、大^{いご}黄1gを加え枳実梔子豉湯加大^{いご}黄として用いる。</p>		
<p>「方劑決定のコツ」の注釈</p>		
<p>大病の回復にはある程度の時間がかかる。また体内の余熱の発散が充分に行なわれるだけの体力の不足があり、即ち気血の循環が不十分で、残邪が筋肉に停滞している。</p>		
<p>枳実梔子豉湯証</p>		
<p>胸に熱があるため胸苦しい時、胃熱のために胃痛がある時などに用いる。内に熱があるから口渴、小便赤黄もみられる。ただし食欲は無い。</p>		
<p>枳実梔子豉湯証</p>		
<p>新古方薬囊によれば「大病を患い快復した後に、食を過ごしたり、または身体を多少無理に使い等したる爲、少し熱があつて夜眠れぬ者、又胃中痛みて食を余り欲しがらぬ者、或は胸苦しき者、又必ずしも大病の後に非ずとも平常身体弱く、以上の様な證候を起し易き者に宜し、本方の證には手足の温き者多し。また大便秘して出でざる者には大^{いご}黄1gを加へ用ふ。」と記されている。</p>		